

様式

## 自己評価委員会報告書

自己評価委員会委員長

実施機関から提出された自己評価等報告書について、下記のとおり助言したので、委員会意見を付して報告します。

令和5年7月19日

(対象年度)

対象年度	令和4年度(2022年度)～
------	----------------

(評価対象)

実施機関名	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 学科 英語英文学科、国際文化学科、食物栄養学科、生活デザイン学科</li><li>・ 委員会 教務委員会、厚生委員会、進路支援委員会、広報委員会、入試委員会、科学研究委員会、地域連携センター運営委員会、データ駆動科学教育研究センター運営委員会、情報システム委員会 自己評価委員会</li><li>・ 事務局</li></ul>
-------	---

(主な助言)

<p>(学科)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 3つのポリシーに対する成果及び保証する取組みを簡潔に追記してください。</li><li>・ 受験生や在学生の満足度の向上を促す取組みを簡潔に追記してください。</li></ul> <p>(委員会)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 受験生や在学生の満足度の向上を促す取組みを簡潔に追記してください。</li><li>・ 教育に関する研修の成果(職員も含む)を簡潔に追記してください。【科学研究委員会】</li><li>・ 学生が学修に専念し、安定した学生生活を送っていくためにハラスメント対策以外の取組み(人権等)を簡潔に追記してください。【厚生委員会】</li><li>・ 短期大学には、より良い地域社会の実現のための提言や知識の提供が求められている。地域の要請に対する成果を簡潔に追記してください。【地域連携センター運営委員会】</li></ul>
---

(自己評価委員会意見)

<ul style="list-style-type: none"><li>・ 各実施機関における役割に対して、目標をもって取組みが継続されている。期待する成果が具現化してない機関においては、引き続き取組みを改善すること。</li><li>・ 取組みにおいては、属人化することなく組織として取り組むこと。</li><li>・ R5.4.11 学長方針の指示事項を踏まえ取り組むこと。</li><li>・ 地域社会の動向に留意し、学生の学修環境向上に取り組むこと。</li><li>・ 点検作業が形骸化しないように、適時、研修等を行うこと。</li></ul>
---

添付資料

- ・ 自己点検報告書(実施機関作成)

## 自己評価報告書

## (評価対象)

実施機関名	英語英文学科	代表者氏名	学科長
評価年度	令和4年度	作成者氏名	学科長

## (実施機関の使命と現状)

カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシー又は設置趣旨	<p><b>カリキュラム・ポリシー</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>英語によるコミュニケーション力を、英語運用能力とそれを支える幅広く深い教養として位置付け、実用的な英語運用能力を伸ばすための「実用英語」科目と、豊かな教養を身につけるための「英文講読」科目及び「英米関係講義」科目。</li> <li>実用的な英語運用能力を伸ばすために必要な要素を、「読む力」「書く力」「聞く力」「話す力」とし、これら4技能の力をバランスよく向上させることができるよう、質・量ともに充実した「実用英語」科目。</li> <li>幅広く深い教養を修得するために、「英米文学」「英語学」「英語教育学」「現代コミュニケーション学」などの学問を体系的に学ぶことができる「英文講読」科目と「英米関係講義」科目。</li> <li>少人数の演習科目、ゼミナール科目など、参加型の科目を数多く設置することにより、自ら考える姿勢を養い、自分の意見を他者にことばによって伝える力を体得する。</li> </ol> <p><b>ディプロマ・ポリシー</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>英米及び英語圏の言語、文学、文化などを学ぶことを通して、自己と世界に対して目を開き、幅広く深い教養を修得し、異文化や他者に対する細やかな想像力をもつ学生。</li> <li>実用的な英語運用能力を身につけ、国際的な場面や地域社会で活躍できる能力をもつ学生。</li> </ol>
現状説明	<p><b>カリキュラム・ポリシー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ポリシーに基づいたシラバスを策定し、授業を実施した。</li> </ul> <p><b>【専門教育科目の受講者数】</b></p> <p>→R4年度の1年生のGPA平均2.61(R3は2.87) 【GPAの状況】</p> <p>R4年度の2年生は、未算出※(R3は2.94)※R5年度算出のため</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教学の質保証のため、所属教員の卒業時アンケート結果を学科会議で共有した。</li> </ul> <p><b>ディプロマ・ポリシー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>R4年度は、35人に短期大学士を授与した。</li> <li>→R4年度卒業生のTOEICスコア平均は、619点(R3は525点)</li> </ul> <p>休学4人、復学2人 【卒業生の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>R4年度卒業生は前年度と比較して英語運用能力が向上した。</li> </ul> <p style="text-align: right;">【検定等の取得状況】</p> <p><b>アドミッション・ポリシー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>R5年度入学生(募集)は、なし(廃止のため)</li> </ul> <p><b>学生満足度を向上する取組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>R5年度からの本格実施に向けて、R4年度後期から、学修ポートフォリオを試行した。</li> </ul>

## (令和4年度重点目標の達成状況)

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>TOEICスコアを2年間で平均200点アップ、英検2級合格者100%</li> <li>R5年度開設の国際コミュニケーション学科の定員を充足する。</li> </ol>
達成状況	<ol style="list-style-type: none"> <li>TOEICスコアは134点アップ、英検2級合格者は77%。</li> </ol>

	<p>2. 志願者は112人で募集定員(90人)以上の志願者を確保したが、定員充足率は71%(入学者64人)となった。</p> <p>試験区分毎の志願者内訳：総合型15人(定員25人)、学校推薦型27人(定員30人)、一般選抜70人(定員35人)</p>
改善事項及び成果	<p>1-1. 検定試験の複数回受験を個々の学生に対し教員から指導した。</p> <p>1-2. 成績が伸び悩む学生に対し、面談を行った。</p> <p>R4年度卒業生のTOEIC平均点は619点、最高点885点という成果を出した(R3は平均525点、最高点715点)。</p> <p>2-1. 進学ガイダンス:高校2校(R3は2)、会場2か所(R3は1)に参加。高校訪問16校(R3は19校)、電話挨拶81校(R3は21校)</p> <p>2-2. 9月のオープンキャンパスを8月に前倒し開催し、夏休みまでに3回開催、参加132人(R3は国際文化学科分を含めて134)。</p> <p>2-3. インスタグラム27件、ユーチューブ3件を投稿しPRを行った。</p> <p>2-4. コロナ禍で中止していた海外英語演習を、9月に国際文化学科と合同でカリフォルニア州立大学ロングビーチ校にて開催することができ、PR材料とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職内定率100%、国公立大学3年次への編入7人、私立大学7人と、就職・進学も好調であった。</li> <li>・情報処理技能検定試験表計算部門では、2級合格96%という成果を出した。(R3は55%)。</li> </ul>
根拠資料	<p>【多読目標の状況】 【検定等の取得状況】</p> <p>【オープンキャンパスの状況】 【令和4年度英語英文学科活動報告】</p>
次年度の課題と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R6年度国際コミュニケーション学科の定員を充足する。</li> <li>→高校訪問等のPRを行い、十分な志願者を確保する。</li> </ul>

**(令和5年度重点目標と方策)**

重点目標	1. R6年度国際コミュニケーション学科の定員を充足する。
方策	<p>1-1. 広報に努める(チラシ作成、進学ガイダンス、高校訪問、オープンキャンパス、YouTube、インスタグラム、ウェブサイトの新着情報など)</p> <p>1-2. 入学者選抜方法を変更する。</p> <p>1-3. カリキュラムをさらに充実させるべく改正する。</p> <p>1-4. 学生の学習支援、海外交流、進路支援を充実させる。</p>

※適宜枠を広げて記入してください。ただし、2枚を越えないように作成してください。

※資料は、表題を記して別途添付してください。

統計資料(英語英文学科)

1. カリキュラム・ポリシー指標

(専門教育科目の受講者数) 単位：人 ( ) は、他学科履修生の内数

分野	授業科目	単位数	年次	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)
実用英語	ライティングⅠ	1	1	50	37	27
	ライティングⅡ	1	1	49	37	26
	ライティングⅢ	1	2	48	52	34
	ライティングⅣ	1	2	47	54	35
	英文法Ⅰ	1	1	50	37	27
	英文法Ⅱ	1	1	49	38	26
	オーラル・イングリッシュⅠ	1	1	50	37	27
	オーラル・イングリッシュⅡ	1	1	49	37	26
	オーラル・イングリッシュⅢ	1	2	37	48	32
	オーラル・イングリッシュⅣ	1	2	16	42	12
	リーディングⅠ	1	1	50	37	27
	リーディングⅡ	1	1	49	37	26
	リーディングⅢ	1	2	45	51	33
	リーディングⅣ	1	2	20	27	19
	エクステンシブ・リーディング	1	1		9	11
	英会話AⅠ	1	1	50	37	27
	英会話AⅡ	1	1	49	37	26
	英会話BⅠ	1	1	40	27	17
	英会話BⅡ	1	1	35	16	6
	英会話AⅢ	1	2	48	52	34
	英会話AⅣ	1	2	48	53	35
	英会話BⅢ	1	2	39	21	14
	英会話BⅣ	1	2	21	19	8
	海外英語演習	2	1・2	0	0	10
	ビジネス・イングリッシュ	1	2	47	48	32
	タッチタイピング演習	1	1	39		
	英語情報教育演習	1	1	34	24	26
	英語論文演習	1	2	33	32	
	アカデミック・イングリッシュⅠ	1	1		29	21
	アカデミック・イングリッシュⅡ	1	1		14	11
	アカデミック・イングリッシュⅢ	1	2			9
	インターネット・イングリッシュ	1	2	18	15	22
	検定英語演習Ⅰ	1	1	45	37	19
検定英語演習Ⅱ	1	1	40	35	18	
英文購読	イギリス文学講読Ⅰ	1	1	49	37	27
	イギリス文学講読Ⅱ	1	1	49	38	24
	アメリカ文学講読Ⅰ	1	1	39	36	27
	アメリカ文学講読Ⅱ	1	1	45	25	26
	アカデミック・イングリッシュⅠ	1	1	50		
	アカデミック・イングリッシュⅡ	1	1	26		
英米関係講義	イギリス文学史	2	2	37	47	32
	イギリス文化論	2	2	47	50	33
	英語学概論Ⅰ	2	1	42	43	26
	英語学概論Ⅱ	2	1	29	39	25
	英語コミュニケーション論Ⅰ	2	2	50		34
	英語コミュニケーション論Ⅱ	2	2	49		32
	英語レトリック概論	2	2	35		

	英語圏社会と文化	2	2		32	35
	現代アメリカ事情	2	2	43	52	33
	英語教育学概論	2	2	32	35	24
参加型科目	英語コミュニケーション研究Ⅰ	2	2	11	8	6
	英語コミュニケーション研究Ⅱ	2	2	11	9	6
	アメリカ文学研究Ⅰ	2	2	8	5	
	アメリカ文学研究Ⅱ	2	2	8	5	
	イギリス文学研究Ⅰ	2	2	9	14	13
	イギリス文学研究Ⅱ	2	2	9	14	13
	英語学研究Ⅰ	2	2	6	6	4
	英語学研究Ⅱ	2	2	6	6	4
	英語習得研究Ⅰ	2	2	10	12	7
	英語習得研究Ⅱ	2	2	9	13	7
	アメリカ社会研究Ⅰ	2	2	4	7	4
アメリカ社会研究Ⅱ	2	2	4	6	5	
	インターンシップ	1	1	0	0	0

(授業の成果 GPA の状況 英語英文学科) 留年生、留学生を除く

区分	入学年度	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
GPA 平均点	1 年生	2.76	2.87	2.61
	2 年生	2.73	2.94	未算出
	総合	2.70	2.89	未算出
	基準最高点	4.0	4.0	4.0

(多読目標の状況 英語英文学科) 単位 : words

区分	目標	科目		R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
1 年前期 (夏休み含む)	140,000	エクステンズヴ・ リーディング	達成者率	%	%	100%	100%
			平均			60,000(8.9冊)	29,002(8.1冊)
			範囲			46,508(8冊) 78,604(9冊)	3,000(8冊) 75,286(9冊)
1 年前期 (夏休み含む)	140,000	リーディングⅠ	達成者率	63%	29%	%	%
			平均	98,400	83,400		
			範囲	10,800 226,800	0 198,400		
+1 年後期 (春休み含む)	140,000	リーディングⅡ	達成者率	55%	57%	78%	58%
			平均	92,400	95,500	120,800	84,800
			範囲	0 211,200	0 177,800	160,000 248,000	0 194,000
2 年前期 (夏休み含む)	140,000	リーディングⅢ	達成者率	52%	38%	16%	91%
			平均	94,800	80,600	32,800	135,600
			範囲	0 260,400	0 171,200	0 174,000	60,400 252,800
2 年後期	100,000	リーディングⅣ	達成者率	%	%	74%	89%
			平均			104,000	121,600
			範囲			0 212,400	0 150,000

(学外授業等の状況 英語英文学科) 単位：件

	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
学外授業(見学)	1 件	1 件	1 件	1 件
海外研修	1 件	0 件	0 件	1 件
地域連携授業	0 件	0 件	0 件	1 件

※学生が参加する授業

2. ディプロマ・ポリシー指標

(卒業生の状況 英語英文学科)

	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
卒業予定者	61 人	48 人	53 人	35 人
就職希望者(就職率)	40 人(100%)	30 人(100%)	33 人(97.0%)	18 人(100%)
進学希望者(進学率)	21 人(90.5%)	14 人(71.4%)	19 人(94.7%)	16 人(100%)
未進路者	0 人	4 人	1 人	1 人
休学者	8 人	8 人	3 人	4 人
復学者	4 人	7 人	6 人	2 人
留年者	2 人	1 人	1 人	4 人
退学・除籍者	2 人	1 人	1 人	1 人

(実用的な英語運用能力 検定等の取得状況 英語英文学科)

区分	卒業年度	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
TOEIC 平均点	入学年度	455 点	410 点	412 点	485 点
	卒業年度	600 点	547 点	525 点	619 点
	上昇点数	145 点	137 点	113 点	134 点
実用英語技能検定	準1級	1 人	1 人	2 人	2 人
	2級	55 人	40 人	41 人	26 人
	2級以上取得率	93.3%	85.4%	81.1%	77.1%

(幅広く深い教養能力 検定等の取得状況 英語英文学科) ( )は受験者に対する合格率

区分	卒業年度	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
情報処理技能検定	1級	1 人(100%)	4 人(57.1%)	0 人(0%)	1 人(50%)
	準1級	6 人(100%)	12 人(75.0%)	3 人(75.0%)	0 人(0%)
(表計算)	2級	28 人(93.3%)	23 人(76.6%)	11 人(55.0%)	24 人(96.0%)
日本語ワープロ 検定	1級	3 人(60.0%)	4 人(80.0%)	0 人(0%)	0 人(0%)
	準1級	4 人(100%)	2 人(40.0%)	3 人(75.0%)	0 人(0%)
	2級	15 人(57.7%)	18 人(51.4%)	11 人(55.0%)	11 人(42.3%)

(専門教育科目の勉学意欲 卒業時アンケート結果 英語英文学科)

	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
増した	45.8%	65.2%	67.4%	70.6%
少し増した	42.4%	28.3%	28.3%	26.5%
あまり変わらない	11.9%	6.5%	4.3%	2.9%

※Q：専門教育科目のカリキュラムについて、全体として勉学への意欲・興味・関心などが促されましたか。

### 3. アドミッション・ポリシー指標

(入学者の状況 英語英文学科)

	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
入学者(志願者)	50人(136)	50人(122)	37人(83)	26人(66)	64人(112)
総合型選抜	11人(15)	14人(17)	10人(10)	6人(6)	15人(15)
学校推薦	7人(8)	9人(10)	11人(12)	6人(6)	27人(27)
社会人等選抜	0人(0)	0人(1)	0人(0)	0人(1)	0人(0)
一般選抜	41人(113)	27人(94)	14人(61)	14人(53)	22人(70)

※R5～国際コミュニケーション学科として集計

(オープンキャンパスの状況 英語英文学科 R4は国際コミュニケーション学科) 学園祭を除く

区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
開催日程	8/9	8/8、9/26	6/20、8/9、9/18	6/5、7/23、8/12
参加者	78人	37人	61人(134人)	132人

※R4～国際コミュニケーション学科募集向けとして集計 R3の()値は国際文化学科分との合算

(本学を希望した理由 新入生アンケート結果 英語英文学科 R5は国際コミュニケーション学科) 複数回答可

	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
短期に一般教養や専門知識・技術を身につけるため	12.0%	13.5%	10.5%	14.7%
資格をとるため	8.0%	11.7%	15.8%	10.9%
自分が学びたいことが学べる環境・カリキュラムであると思ったから	25.6%	22.5%	19.7%	25.6%
4大の3年次編入や専門学校などへの選択ができるから	20.0%	24.3%	22.4%	15.4%
卒業後の就職に有利だから	8.0%	7.2%	7.9%	7.1%
公立だから	26.4%	20.7%	23.7%	26.3%

### 4. 地域貢献活動

(教員の地域貢献活動の状況 英語英文学科)

区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
公開講座	2件	0件	3件	1件
出前・出張講座	0件	2件	0件	0件
地域連携活動	0件	0件	0件	0件
行政等審議会議員派遣	0件	0件	0件	0件

### 5. 研究活動

(外部資金獲得の状況 英語英文学科)

区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
科研費採択	1件	1件	1件	3件
奨学寄附金採択	0件	0件	0件	0件

## 自己評価報告書

## (評価対象)

実施機関名	国際文化学科 (R4) 国際コミュニケーション学科 (R5)	代表者氏名	学科長
評価年度	令和4年度	作成者氏名	学科長

## (実施機関の使命と現状)

カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシー又は設置趣旨	<p><b>カリキュラム・ポリシー</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>異文化の人々との交流において私たちの基盤となる日本文化や日本語の理解と能力を高める授業、および現代社会での生活に必要な情報科学の理解と技能を高める授業。</li> <li>国際化する現代で重要な位置を占める英語の能力を高める授業、我が国との交流が深い隣国である中国語や韓国語の基礎を学ぶ授業。</li> <li>人々の生活の背景となる多様な文化や社会、国際関係に関する知識と理解を深める授業。</li> <li>自ら課題を見つけ出し、その解決のために自ら調べ、発表する姿勢を養うための授業。</li> <li>学生各自の関心や将来の進路に則した、実社会への橋渡しとなる授業。</li> </ol> <p><b>ディプロマ・ポリシー</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>さまざまな文化や社会に関する知識を深め、国際化や多文化共生が進む社会において多様な価値観を許容する力を身につけた学生。</li> <li>異文化の人々との交流において基盤となる日本文化や日本語の知識と能力、社会生活において必要な情報科学の知識と技能を身につけ、英語に加えて中国語または韓国語の語学力を用いて、国際化や多文化共生が進む社会において課題を見つけ、さまざまな文化的背景をもつ人々と協調して、その解決に取り組む姿勢を身につけた学生。</li> </ol>
現状説明	<p><b>カリキュラム・ポリシー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ポリシーに基づいたシラバスを策定し、授業を実施した。 →R4年度の1年生のGPA平均2.70(R3は3.12) 【GPAの状況】 2年生は、未算出*(R3は2.99) ※R5年度算出のため</li> <li>教学の質保証のため、卒業時アンケート結果について学科で検討した。</li> <li>R5年度からの学科改編において、学生が主体的な学びを追求しやすくするため学科内に領域制を設定した。</li> <li>R5年度から本学カリキュラムの魅力高めるため地域課題解決科目「岐阜学」、データサイエンス科目「データサイエンス概論」「統計・情報処理」を必須科目に設定した。</li> </ul> <p><b>ディプロマ・ポリシー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>R4年度は、37人に短期大学士を授与した。 →R4年度卒業生の中国語関係検定合格者は、27人(R3は20人) 韓国関係検定試験合格者は、5人(R3は4人) 情報処理技能検定は、受験者0人(R3は合格者43人) 【活動報告】 留年4人、退学3人、休学2人、復学1人 【卒業生の状況】</li> </ul> <p><b>アドミッション・ポリシー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>R5年度から国際コミュニケーション学科として学生を募集するため、新たなポリシーを学科で検討し公表した。</li> <li>R5年度入学生は、64人(志願者112人) 【入学生の状況】</li> </ul> <p>学生満足度を向上する取組み</p>



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R5 年度からの本格実施に向けて、R4 年度後期から、学修ポートフォリオを試行した。</li> </ul>
--	---

**(令和 4 年度重点目標の達成状況)**

重点目標	<p>R5 年度開設の国際コミュニケーション学科の定員を充足する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 広報に努める</li> <li>2. 高校との交流を検討する（高大連携も検討に）</li> <li>3. 地域との交流を深める（地域での学びや地域貢献も念頭に）</li> <li>4. コロナ禍での海外研修に代わる教育実践を模索する。</li> </ol>
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定員を充足できなかった。</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 進学ガイダンス:高校 4 校（R3 は 8）、会場 5 か所（R3 は 2）に参加。高校訪問 17 校（計 22 回）（R3 は 12 校）、夏休みまでのオープンキャンパス 3 回開催、参加計 132 人（R3 は英語英文学科分を含めて 134）インスタグラム 26 件、ユーチューブ 4 件</li> <li>2. 市立岐阜商業との連携プログラムを実施した。</li> <li>3-(1) 太地町立くじらの博物館で学外研修を行った（9 月 12～15 日） (2) ネットワーク大学コンソーシアム岐阜「学生による地域課題解決提案事業」に参加した（「岐阜市内外国人のアルバイト状況に関する調査」、成果発表 12 月 17 日） (3) 岐阜市女性センターと協力して、学生による「ぎふし男女共同参画情報紙・織」20 号の企画・編集を行った（3 月発行）。</li> <li>4. 韓国威徳大学とオンライン交流会を実施した（3 回）</li> </ol>
改善事項及び成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 志願者は 112 人で募集定員(90 人)以上の志願者を確保したが、定員充足率は 71%(入学者 64 人)となった。 試験区分毎の志願者内訳：総合型 15 人(定員 25 人)、学校推薦型 27 人(定員 30 人)、一般選抜 70 人(定員 35 人)</li> <li>2. R5 年度には市岐商での出前授業や本学留学生と市岐商生徒との交流を計画した。市岐商以外との交流の検討は進んでいない。</li> <li>3-(1) 参加学生 14 名 (2) 参加学生 4 名 (3) 参加学生 4 名 (R3 は 4 名、R2 は 3 名)</li> <li>4. 参加学生各回とも 5 名</li> </ol>
根拠資料	<p>【専門教育科目の受講者数】 【検定等の取得状況】 【入学者の状況】 【オープンキャンパスの状況】 【R4 年度国際文化学科活動報告】</p>
次年度の課題と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際コミュニケーション学科での志願者獲得に努める。</li> <li>・中国語関係の検定試験では実施している対策講座を、韓国語関係の検定試験についても実施して、合格者の増加を図る。 R5 年度から検定試験をこれまで行ってきたワードや表計算から IT パスポートなどに移し、全学科の学生を対象に対策講座を実施し、合格者の増加を図る。</li> <li>・高大連携をさらに図る。</li> <li>・引き続き、地域とかかわる体験型の学びを行う。</li> </ul>

**(令和 5 年度重点目標と方策)**

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際コミュニケーション学科の定員を充足する。</li> </ol>
方策	<ol style="list-style-type: none"> <li>1-1. 入学選抜方法を検討する</li> <li>1-2. 広報に努める：時宜にあった高校訪問、進学ガイダンスやオープンキャンパスでの受験生への学科周知、本学 HP 等への積極的掲載など</li> <li>1-3. カリキュラムのさらなる充実の検討</li> <li>1-4. 海外交流の拡充（海外研修、協定等）</li> </ol>

※適宜枠を広げて記入してください。ただし、2 枚を越えないように作成してください。

※資料は、表題を記して別途添付してください。

統計資料(国際文化学科)

1. カリキュラム・ポリシー指標

(専門教育科目の受講者数) 単位：人 ( )は、他学科履修生の内数

分野	授業科目	単位数	年次	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)
異文化の理解	比較文化論	2	2	67	59	42
	多文化共生論	2	1		43	45
	文化人類学	2	2	55	0	28
	日本文化論	2	1	60	44(1)	44
	民俗学	2	2	34	31	28
	アジア文化論	2	1	60	37	48
	中国文化論	1	1	55	32	29
	韓国文化論	1	1	42	27	29
	英米文化論	2	2	60	0	42
	ヨーロッパ文化論	2	2	49	32	28
	文化交流論	2	2	20	25	29(2)
	日本文学論	2	1	34(2)	28	33(1)
	比較文学論	2	2	36	27	33
	国際関係論	2	1	59	26	47
	国際協力論	2	2	56	48	39
情報・言語 コミュニケーション コミュニケーション科目	異文化コミュニケーション	2	2	77	60	42
	情報社会論	2	2	8	12	
	英会話Ⅰ	1	1	60		
	英会話Ⅱ	1	1	59		
	英会話Ⅲ	1	2	24	51	
	英会話Ⅳ	1	2	8	25	
	カレッジ・イングリッシュⅠ	1	1		35	37
	カレッジ・イングリッシュⅡ	1	1		28	17
	カレッジ・イングリッシュⅢ	1	2		0	18
	カレッジ・イングリッシュⅣ	1	2		0	11
	海外言語・文化演習(英語圏)	1		0	0	14
	海外言語・文化演習(韓国)	1		0	0	0
	海外言語・文化演習(中国語圏)	1		0	0	0
	初級中国語Ⅰ	1	1	52	37	41
	初級中国語Ⅱ	1	1	51	32	45
	中級中国語Ⅰ	1	2	65	29	29
	中級中国語Ⅱ	1	2	27	15	27
	応用中国語Ⅰ	1	2	38	31(1)	13
	応用中国語Ⅱ	1	2	24	0	14
	初級中国語会話Ⅰ	1	1	55	37	34
	初級中国語会話Ⅱ	1	1	52	33	33
	中級中国語会話Ⅰ	1	2	62	27	28
	中級中国語会話Ⅱ	1	2	46	14	28
	韓国語(入門Ⅰ)	1	1	53	37(3)	38
	韓国語(入門Ⅱ)	1	1	41	28(2)	30
	韓国語(会話Ⅰ)	1	2	28	23	19
	韓国語(会話Ⅱ)	1	2	17	11	13
	韓国語(文法・読解Ⅰ)	1	1	36	19	38
	韓国語(文法・読解Ⅱ)	1	2	25	18	16
	情報処理概論	2	1	60		
	情報科学概論	2	1		43	
	情報・統計処理	1	1			33

	認知情報処理	1	1		17	
	情報処理演習Ⅰ（表現）	1	1	59		
	情報処理演習Ⅰ（関数）	1	1	59		
	情報処理演習Ⅱ（応用）	1	2	23	46	
	情報処理演習Ⅲ（発展）	1	2	23	17	
	やさしい日本語（作文）	1	2			
	日本語表現法Ⅰ	1	1	60	43	44
	日本語表現法Ⅱ	1	1	41	34	28
関連科目	現代国際事情	2	1	35		
	国際経済論	2	2	22	20(1)	24
	人間関係論	2	1	39	40	21
	観光論	2	2	72	49	38
	ホテル論	2	1	51(2)	37	38
専門演習	専門演習	2	2	77	59	42
卒業研究	卒業研究	2	2	77	60	46

(授業の成果 GPA の状況 国際文化学科) 留年生を除く

区分	入学年度	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)
GPA 平均点	1年生	2.98	3.12	2.70
	2年生	2.98	2.99	未算出
	総合	2.97	3.05	未算出
	基準最高点	4.0	4.0	4.0

(学外授業等の状況 国際文化学科) 単位：件

	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)
学外授業(見学)	1件	3件	1件
海外研修	0件	0件	1件
地域連携授業	2件	2件	3件

※学生が参加する授業

## 2. ディプロマ・ポリシー指標

(卒業生の状況 国際文化学科)

	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)
卒業予定者	77人	60人	37人
就職希望者(就職率)	50人(98.0%)	47人(95.7%)	26人(96.3%)
進学希望者(進学率)	27人(55.6%)	7人(100%)	10人(60.0%)
未進路者	0人	6人	1人
休学者	1人	1人	2人
復学者	3人	1人	1人
留年者	0人	0人	4人
退学・除籍者	0人	0人	3人

## (語学力 検定等の取得状況 国際文化学科)

	区分	卒業年度	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
中国語	中国語検定	2 級	1 人	0 人	0 人
		3 級	3 人	3 人	3 人
		4 級	2 人	1 人	5 人
		準 4 級	16 人	16 人	13 人
	HKS (漢語水平考試)	6 級	0 人	0 人	1 人
		5 級	7 人	0 人	3 人
		4 級	3 人	0 人	2 人
		2 級	1 人	0 人	0 人
韓国語	ハングル検定	準 2 級	1 人	0 人	0 人
		3 級	1 人	0 人	1 人
		4 級	0 人	0 人	0 人
		5 級	0 人	0 人	1 人
	TOPIK (韓国語能力試験)	6 級	1 人	0 人	0 人
		5 級	0 人	2 人	1 人
		4 級	0 人	1 人	1 人
		3 級	1 人	0 人	0 人
		2 級	0 人	1 人	1 人

## (情報科学力 検定等の取得状況 国際文化学科)

区分	卒業年度	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
情報処理技能検定 (表計算)	1 級	3 人	10 人	0 人
	2 級	29 人	33 人	0 人
情報処理技能検定 (データベース)	1 級	1 人	0 人	0 人
	2 級	0 人	0 人	0 人
日本語ワープロ 検定	1 級	2 人	4 人	0 人
	準 1 級	2 人	4 人	0 人
	2 級	12 人	9 人	0 人
	準 2 級	29 人	18 人	0 人
ホームページ検定	1 級	10 人	7 人	0 人
文書デザイン検定	1 級	6 人	17 人	0 人
	2 級	0 人	0 人	0 人
プレゼンテーション検定	1 級	4 人	13 人	0 人

## (専門教育科目の勉学意欲 卒業時アンケート結果 国際文化学科)

	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
増した	45.5%	35.0%	68.4%
少し増した	44.2%	46.7%	26.3%
あまり変わらない	10.4%	18.3%	5.3%

※Q：専門教育科目のカリキュラムについて、全体として勉学への意欲・興味・関心などが促されましたか。

### 3. アドミッション・ポリシー指標

(入学者の状況 国際文化学科)

	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
入学者(志願者)	60人(157)	43人(89)	44人(78)	64人(112)
総合型選抜	5人(8)	3人(4)	11人(11)	15人(15)
学校推薦(一般)	31人(40)	19人(19)	17人(17)	27人(27)
社会人等選抜	0人(0)	0人(0)	0人(0)	0人(0)
一般選抜	24人(109)	21人(66)	16人(50)	22人(70)

※R5～国際コミュニケーション学科として集計

(オープンキャンパスの状況 国際文化学科) 学園祭を除く

区分	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
開催日程	8/8、9/26	6/20、7/17、8/9	6/5、7/23、8/12
参加者	51人	73人(134人)	132人

※R4～国際コミュニケーション学科募集向けとして集計 R3の()値は英語英文学科分との合算

(本学を希望した理由 新入生アンケート結果 国際文化学科 R5は国際コミュニケーション学科) 複数回答可

	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
短期に一般教養や専門知識・技術を身につけるため	11.9%	19.1%	16.8%	14.7%
資格をとるため	13.6%	10.3%	13.6%	10.9%
自分が学びたいことが学べる環境・カリキュラムであると思ったから	24.4%	25.0%	28.8%	25.6%
4大の3年次編入や専門学校などへの選択ができるから	13.6%	14.0%	16.0%	15.4%
卒業後の就職に有利だから	11.4%	5.2%	4.0%	7.1%
公立だから	25.0%	25.7%	20.8%	26.3%

### 4. 地域貢献活動

(教員の地域貢献活動の状況 国際文化学科)

区分	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
公開講座	0件	1件	2件
出前・出張講座	2件	1件	0件
地域連携活動	1件	1件	1件
行政等審議会議員派遣	1件	2件	3件

### 5. 研究活動

(外部資金獲得の状況 国際文化学科)

区分	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
科研費採択	4件	2件	3件
奨学寄附金採択	0件	0件	1件

## 自己評価報告書

## (評価対象)

実施機関名	食物栄養科 (R4) 健康栄養学科 (R5)	代表者氏名	学科長
評価年度	令和 4 年度	作成者氏名	学科長

## (実施機関の使命と現状)

カリキュラム・ポリシー及 びディプロマ・ポリシ ー又は設置趣旨	<p><b>カリキュラム・ポリシー</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 年次前期には、本学科独自の基礎教育科目として、「基礎実験化学」を開講し、高等学校において化学の未履修者を対象にした基礎教育を行います。</li> <li>1 年次から 2 年次までに、本学科独自の専門科目として、「老年学」、「病態病理学」、「食品微生物学」、「食品品質管理論」、「食品流通論」、「栄養士特論」、「カウンセリング論」の 7 科目を開講し、管理栄養士に必要な知識も一部先行的に学べる教育を行います。</li> <li>とくに、1 年次後期には、現役で活躍している管理栄養士・栄養士を講師陣として迎え、オムニバス形式の「栄養士特論」を開設し、栄養士としての職業意識の育成を行います。</li> <li>2 年次には、少人数教育による卒業研究を行い、栄養士に必要とされる高度な専門的知識・技能を習得させるとともに、協調性や対話力など社会性を身につけさせるための教育を行います。</li> </ol> <p><b>ディプロマ・ポリシー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品・栄養・人体・疾病に関する幅広い知識を身につけ、高い倫理観と責任感をもって行動ができる学生。</li> </ul>
現状説明	<p><b>カリキュラム・ポリシー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポリシーに基づいたシラバスを策定し、授業を実施した。 →R4 年度の 1 年制の GPA 平均 2.83 (R3 は 2.52) 【GPA の状況】 2 年生は、未算出* (R3 は 2.74) ※R5 年度算出のため</li> <li>・教学の質保証のために、学生に対して「授業評価アンケート調査」を実施・分析し、今後の授業改善に努めた。</li> <li>・R5 年度からの学科改編において、学生が主体的な学びを追求しやすくするため学科内に領域制を設定した。</li> <li>・R5 年度から本学カリキュラムの魅力を高めるため地域課題解決科目「岐阜学」、データサイエンス科目「データサイエンス概論」「統計・情報処理」を必須科目に設定した。</li> </ul> <p><b>ディプロマ・ポリシー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R4 年度は、37 人に短期大学士を授与した。 →R4 年度卒業生の栄養士免許取得者は、36 人 (R3 は 52 人) 留年 3 人、退学 2 人、休学 4 人、復学 2 人 【卒業生の状況】</li> </ul> <p><b>アドミッション・ポリシー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R5 年度から健康栄養学科として学生を募集するため、新たなポリシーを学科で検討し公表した。</li> <li>・R5 年度入学生は、44 人 (志願者 80 人) 【入学生の状況】</li> </ul> <p><b>学生満足度を向上する取組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R5 年度からの本格実施に向けて、R4 年度後期から、学修ポートフォリオを試行した。</li> </ul>

**(令和4年度重点目標の達成状況)**

重点目標	1. 新学科の定員 50 名を確保する。
達成状況	1. R5 年度の入学者は 44 名で、目標とした 50 名には届かなかった。
改善事項及び成果	1-1. 広報活動に YouTube(3 回)、Instagram(33 回)を投稿した。 1-2. 進学ガイダンス:高校 1 校 (R3 は 6)、会場 5 か所 (R3 は 5) に参加。 高校訪問 25 校 (R3 は 20 校)、夏休みまでのオープンキャンパス 3 回開催、参加計 70 人 (R3 は 107) 1-3. ニュースレターを 4 回発行した。 ・一般選抜 I の入試方法を見直した。 ⇒入試方法の見直しにより、高校時、理系クラスの合格者が増えた。
根拠資料	【入学者の状況】 【オープンキャンパスの状況】 【R4 年度食物栄養学科活動報告】
次年度の課題と改善策	・少子化を迎えた今、年々、入学者の確保が難しくなっている。 →これまでの食物栄養学科の定員は 60 名であったが、新学科の健康栄養学科の定員は 50 名に見直した。より充実した広報活動を行い、定員確保に努める。

**(令和5年度重点目標と方策)**

重点目標	1. 新学科の定員 50 名を確保する。
方策	1-1. 学科 Web サイト、YouTube、Instagram の活用。 →随時、更新する。 1-2. オープンキャンパス・高校訪問の実施、進学ガイダンスへの参加。 →随時、参加する。 1-3. 学科ニュースレターの発行。 →年 4 回、オープンキャンパス時に発行する。

※適宜枠を広げて記入してください。ただし、2 枚を越えないように作成してください。

※資料は、表題を記して別途添付してください。

## 統計資料(食物栄養学科)

## 1. カリキュラム・ポリシー指標

(専門教育科目の受講者数) 単位：人 ( )は、他学科履修生の内数

分野	授業科目	単位数	年次	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)
社会生活と健康	公衆衛生学	2	2	58	52	37
	社会福祉概論	2	2	57	52	37
人体と構造と機能	解剖学	1	1	54	38	58
	生理学Ⅰ	1	1	54	38	58
	生理学Ⅱ	2	2	57	52	37
	解剖生理学実験	1	2	57	52	38
	生化学Ⅰ	2	1	54	38	58
	生化学Ⅱ	2	2	57	52	38
	生化学実験	1	1	54	38	58
	老年学	2	2	21	28	4
	病態病理学	2	2	27	15	11
食品と衛生	食品学	2	1	54	41	60
	食品学実験	1	1	54	41	60
	食品加工学	2	2	58	52	37
	食品加工学実習	1	2	57	52	37
	食品衛生学	2	2	58	52	37
	食品衛生学実験	1	2	57	52	37
	食品微生物学	2	1	54	38	54
	食品品質管理論	2	2	55	49	23
	食品流通論	1	2	31	18	20
栄養と健康	基礎栄養学	2	1	54	41	60
	栄養学実験	1	1	54	41	60
	応用栄養学	2	1	54	42(1)	60
	応用栄養学実習	1	1	54	38	30
	栄養管理論	1	2	58	52	38
	臨床栄養学Ⅰ	2	1	54	38	58
	臨床栄養学Ⅱ	1	2	58	52	38
	臨床栄養学実習Ⅰ	1	2	57	52	38
臨床栄養学実習Ⅱ	1	2	57	52	37	
栄養と指導	栄養指導論	2	1	54	41	60
	栄養指導論実習Ⅰ	1	1	54	38	58
	栄養指導論実習Ⅱ	1	2	57	52	37
	栄養教育論	2	2	58	52	38
	公衆栄養学概論	2	2	58	52	38
	栄養情報処理実習	1	1	54	38	58
	栄養士特論	2	1	52	38	55
	カウンセリング論	2	2	56	42	34
給食の運営	調理学	2	1	55	41	60
	調理学実習	1	1	54	41	60
	給食管理	2	1	54	41	60
	給食管理実習Ⅰ	1	1	54	38	58
	給食管理実習Ⅱ	1	2	57	52	38
基礎化学	基礎実験化学	2	1	52	41	59
卒業研究	卒業研究	2	2	57	52	38



(授業の成果 GPA の状況 食物栄養学科) 留年生、留学生を除く

区分	入学年度	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
GPA 平均点	1 年生	2.26	2.69	2.52	2.83
	2 年生	2.53	2.72	2.74	未算出
	総合	2.38	2.70	2.65	未算出
	基準最高点	3.0	4.0	4.0	4.0

(学外授業等の状況 食物栄養学科) 単位：件

	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
学外授業(見学)	3 件	0 件	3 件	3 件
海外研修	0 件	0 件	0 件	0 件
地域連携授業	2 件	2 件	2 件	1 件

※学生が参加する授業

2. ディプロマ・ポリシー指標

(卒業生の状況 食物栄養学科)

	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
卒業予定者	59 人	58 人	52 人	37 人
就職希望者(就職率)	52 人(98.1%)	54 人(92.6%)	42 人(100%)	36 人(97.2%)
進学希望者(進学率)	6 人(100%)	3 人(100%)	9 人(88.9%)	1 人(100%)
未進路者	1 人	1 人	1 人	1 人
休学者	0 人	1 人	0 人	4 人
復学者	1 人	0 人	0 人	2 人
留年生	0 人	2 人	0 人	3 人
退学・除籍者	1 人	1 人	0 人	2 人

(食品・栄養・人体・疾病に関する幅広い知識力 栄養士免許の取得状況 食物栄養学科)

区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
卒業生	59 人	58 人	52 人	37 人
栄養士免許取得	58 人	57 人	52 人	36 人
栄養士業務従事者	19 人	28 人	31 人	21 人
管理栄養士免許取得	15 人	12 人	20 人	10 人

(専門教育科目の勉学意欲 卒業時アンケート結果 食物栄養学科)

	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
増した	62.1%	50.9%	54.0%	62.2%
少し増した	36.2%	43.9%	34.0%	32.4%
あまり変わらない	1.7%	5.3%	12.0%	5.4%

※Q：専門教育科目のカリキュラムについて、全体として勉学への意欲・興味・関心などが促されましたか。

3. アドミッション・ポリシー指標

(入学者の状況 食物栄養学科)

	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
入学者(志願者)	60 人(120)	54 人(104)	40 人(74)	58 人(92)	44 人(80)
総合型選抜	大( )	大( )	15 人(17)	28 人(29)	13 人(13)
学校推薦	29 人( 39)	24 人( 26)	13 人(13)	11 人(11)	12 人(12)
社会人等選抜	1 人( 1)	0 人( 0)	1 人( 1)	2 人( 2)	1 人( 2)
一般選抜	30 人(80)	30 人( 78)	11 人(43)	17 人(50)	18 人(53)

(オープンキャンパスの状況 食物栄養学科) 学園祭を除く

区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
開催日程	8/3、8/31	8/9、9/27	6/20、7/18、8/8	6/5、7/10、8/7
参加者	76人	64人	107人	70人

(本学を希望した理由 新入生アンケート結果 食物栄養学科 R5は健康栄養学科) 複数回答可

	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
短期に一般教養や専門知識・技術を身につけるため	18.4%	22.3%	16.5%	23.3%
資格をとるため	23.3%	22.3%	25.2%	26.2%
自分が学びたいことが学べる環境・カリキュラムであると思ったから	14.1%	20.1%	22.1%	13.6%
4大の3年次編入や専門学校などへの選択ができるから	12.9%	7.9%	9.5%	11.7%
卒業後の就職に有利だから	4.9%	6.5%	0.8%	3.9%
公立だから	24.5%	20.9%	25.2%	21.4%

4. 地域貢献活動

(教員の地域貢献活動の状況 食物栄養学科)

区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
公開講座	2件	0件	3件	3件
出前・出張講座	1件	1件	0件	2件
地域連携活動	1件	1件	2件	2件
行政等審議会議員派遣	7件	8件	7件	12件

5. 研究活動

(外部資金獲得の状況 食物栄養学科)

区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
科研費採択	0件	0件	0件	0件
奨学寄附金採択	0件	0件	1件	0件

## 自己評価報告書

## (評価対象)

実施機関名	生活デザイン学科 (R4) デザイン環境学科 (R5)	代表者氏名	学科長
評価年度	令和4年度	作成者氏名	学科長

## (実施機関の使命と現状)

カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシー又は設置趣旨	<p><b>[カリキュラム・ポリシー]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広く人間の生活に関連する事物のデザインを追究し、それらの学びを通して「ものづくり」に関わる専門能力と、社会生活における諸課題を創造的に解決するための「智慧」の習得を目指しています。このような目標を実現するため、本学科では以下の方針にもとづいて専門教育科目の教育課程を編成し、実施します。</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. デザイン活動全般において必要不可欠な能力を習得するための「基礎科目」を設定し、専門性獲得のための基盤を構築する。</li> <li>2. 専修固有の知識と技術を体系的に身につけるための「専修科目」を設定し、専門的で実践的な能力を習得する。</li> <li>3. 各専修の連関について理解を深め、より広い知見を得るための「展開科目」を設定し、知識と技術を総合的に活用する能力を習得する。</li> </ol> <p><b>[ディプロマ・ポリシー]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広く人間の生活に関連する事物のデザインを追究し、それらを軸とした学生への教育実施によって「ものづくり」と「智慧」を習得した「専門性を有する教養人」「教養を有する専門家」の輩出を目指しています。本学全体の卒業認定方針に加え、学科として以下の方針にもとづいて学生の卒業を認定し、「短期大学士（生活デザイン学）」の学位を授与します。</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各専修が設定した知識や技術の習得目標を達成し、「ものづくり」に関わる能力を身につけている。</li> <li>2. デザインの思想や意義を理解し、創造的な解決を導き出す「智慧」にもとづいて、社会生活における諸課題に取り組む姿勢を身に付けている。</li> </ol>
現状説明	<p><b>カリキュラム・ポリシー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ポリシーに基づいたシラバスを策定し、授業を実施した。</li> </ul> <p>→R4年度の1年生のGPA平均2.83(R3は2.52) 【GPAの状況】 2年生は、未算出※(R3は2.74)※R5年度算出のため</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教学の質保証のため学科独自のアンケートを入学・卒業時に実施し、授業内容に反映させた。</li> <li>・ R5年度からの学科改編において、学生が主体的な学びを追求しやすくするため学科内に領域制を設定した。</li> <li>・ R5年度から本学カリキュラムの魅力を高めるため地域課題解決科目「岐阜学」、データサイエンス科目「データサイエンス概論」「統計・情報処理」を必須科目に設定した。</li> </ul> <p><b>ディプロマ・ポリシー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ R4年度は、40人に短期大学士を授与した。</li> </ul> <p>→R4年度卒業生の衣料管理士2級資格取得者は、8人(R3は12人) 建築CAD検定2級は、0人(R3は0人) 色彩能力検定2級は、6人(R3は4人) 留年3人、退学5人、休学6人、復学3人 【卒業生の状況】</p> <p><b>アドミッション・ポリシー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ R5年度からデザイン環境学科として学生を募集するため、新たなポリ</li> </ul>

	<p>シーを学科で検討し公表した。</p> <p>・R5 年度入学生は、59 人(志願者 80 人) 【入学生の状況】</p> <p><b>学生満足度を向上する取組み</b></p> <p>・R5 年度からの本格実施に向けて、R4 年度後期から、学修ポートフォリオを試行した。</p>
--	--

**(令和 4 年度重点目標の達成状況)**

<b>重点目標</b>	<p>1-1. 受験生の確保(60 名の定員以上の学生を確保する)</p> <p>1-2. 新学科体制の準備</p> <p>2. 地域との連携の充実(実施件数昨年度比 1.25 倍)</p> <p>3. 休退学者対策の実施(休退学者を学生数の 5%未満までにする)</p>
<b>達成状況</b>	<p>1-1. 定員 60 名⇒59 名入学。概ね目標を達成したが、1 名定員を割った。</p> <p>1-2. シラバス、時間割編成等を作成した。</p> <p>2. CeNCER 関連事業の他、学科独自の連携事業を多数実施</p> <p>3. 休退学・留年：R2 入学 9 名、R3 入学 7 名、R4 入学 1 名と減少。専修互換科目は、過年度生 2 名が履修。1 名が退学したものの、1 名は 2 年に進級し GPA も上昇した。</p>
<b>改善事項及び成果</b>	<p>1-1. 進学ガイダンス:高校 2 校 (R3 は 5)、会場 3 か所 (R3 は 11) に参加。</p> <p>高校訪問 20 校(R3 は 6 校)、夏休みまでのオープンキャンパス 3 回開催、参加計 123 人 (R3 は 134)</p> <p>インスタグラム 484 件(R3 は 617)、ユーチューブ 3 件(R3 は 3)</p> <p>(累計はインスタグラム 2,814、ユーチューブ 6)</p> <p>1-2. 本学 Web サイトに新学科紹介を掲載</p> <p>2. 地域との連携活動を 12 件実施し、11 回新聞記事として掲載。</p> <p>3. 休退学者は休学者が退学するケースは続いたが、新たな休退学者を減少させることができた。</p>
<b>根拠資料</b>	<p>【卒業生の状況】 【入学者の状況】 【オープンキャンパスの状況】</p> <p>【地域貢献活動の状況】 【令和 4 年度デザイン環境学科活動報告】</p>
<b>次年度の課題と改善策</b>	<p>・受験生が大きく減少しており、入学者も定員を 1 名満たすことができなかった。</p> <p>・受験生の確保を次年度の重点項目として対応する。</p>

**(令和 5 年度重点目標と方策)**

<b>重点目標</b>	<p>1. 受験生の確保</p> <p>2. 新学科体制の充実</p> <p>3. 休退学者の対策</p> <p>4. 進路支援の充実</p> <p>5. 地域貢献</p>
<b>方策</b>	<p>1. 進学ガイダンスの積極的かつ戦略的な参加・高校訪問や高校連絡に全員体制で取り組み、特に岐阜市内の高校との連携を強化・オープンキャンパスや広報の充実</p> <p>2. 学生の満足度の向上</p> <p>3. ポートフォリオも活用し手厚い対応</p> <p>4. 学生の希望の職種に就職または進学 100%を目指す</p> <p>5. 既存の連携+新規案件</p>

※適宜枠を広げて記入してください。ただし、2 枚を超えないように作成してください。

※資料は、表題を記して別途添付してください。

統計資料(生活デザイン学科)

1. カリキュラム・ポリシー指標

(専門教育科目の受講者数) 単位：人 ( )は、他学科履修生の内数

分野	授業科目	単位数	年次	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)
基礎科目	デザイン概論	2	1	61	47(2)	69
	色彩学	2	1	63	47	69
	基礎造形	2	1	61	45	68
	デッサン	2	1	52	38	50
	生活材料学	2	1	33	22	19
	ファッションデザイン論	2	1	32	14	11
	建築・インテリア概論	2	1	32	24	49
	インテリアデザイン論	2	1	39	18	30
	美術・デザイン史	2	1	42	31	40
	メディアデザイン論	2	1	31	31	36
専修科目 (ファッション)	ファッションデザイン画	2	1		8	11
	ファッションデザイン画Ⅰ	2	1	12		
	ファッションデザイン画Ⅱ	2	2	17	11	
	ファッションデザイン演習Ⅰ	2	1	12	8	10
	ファッションデザイン演習Ⅱ	2	2	17	12	8
	ファッション造形論	2	1	12	8	10
	ファッション造形演習Ⅰ	2	1	12	8	10
	ファッション造形演習Ⅱ	2	1	12	8	10
	ファッション造形演習Ⅲ	2	2	10	12	8
	ファッション造形演習(和服)	2	2		0	2
	パターンメイキング論	2	2	17	12	8
	ドレーピング	2	1		8	10
	ドレーピングⅠ(基礎)	2	1	13(1)		
	ドレーピングⅡ(応用)	2	2	10	8	
	材料管理学	2	2	17	12	8
	テキスタイル素材演習	2	2	17	12	8
	染色デザイン演習	2	2		0	8
	テキスタイル染色演習	2	2	17	12	8
	ファッションビジネス論	2	1	12	8	12
	ファッションマーケティング	2	1	12	8	10
	アパレルマーチャンダイジング	2	2	17	12	
	ブランドマーチャンダイジング	2	2		0	8
	ファッション販売論	2	2	7	4	4
	服飾文化史	2	1	11	5	9
	ファッション史概論	2	1		8	10
	消費科学	2	2	17	12	8
課題研究	2	1	12	8	10	
専修科目 (建築・インテリア)	建築・インテリア基礎製図	2	1	24	18	28
	建築・インテリア設計演習Ⅰ	2	1	24	17	28
	建築・インテリア設計演習Ⅱ	2	2	24	25	12
	建築・インテリア設計演習Ⅲ	2	2	12	6	2
	建築・インテリアCAD演習	2	1	25	17	28
	空間デザイン演習	2	2	17	10	
	建築プレゼンテーション演習	2	2		0	7
	建築計画論	2	1	24	18	28
	公共施設計画論	2	1		17	27
	住生活論	2	2	24	25	10

	西洋建築史	2	2	24	25	9
	日本建築史	2	2	21	13	8
	建築材料学	2	1	24	18	28
	一般構造	2	1	25	17	28
	構造力学	2	1	25	17	28
	構造力学演習	2	2	22	24	13
	構造計画	2	2	16	19	10
	建築環境学	2	1	24	17	28
	建築設備学	2	1	24	17	28
	施工と生産システム演習	2	2	24	25	16
	建築法規	2	2	24	25	17
	測量実習	2	2	24	24	
	測量演習	2	2			8
	インテリアディスプレイデザイン	2	2	29	26	
	インテリアデザイン演習	2	2		0	14
	課題研究	2	1	25	17	24
専修科目 (ヴィジュアル)	発想トレーニング	2	1	25	19	30
	C G 演習	2	1	26(1)	21	33
	映像機器論	2	1	25		
	映像表現論	2	2	16(1)	3(1)	
	映像表現 (実写)	2	2		0	4
	映像表現 (アニメーション)	2	2		0	0
	グラフィックデザインⅠ	2	1	25	19	30
	グラフィックデザインⅡ	2	1	26	21	34
	グラフィックデザインⅢ	2	2	25	23	15
	グラフィックデザインⅣ	2	2	27	23	15
	イラストレーションⅠ	2	1	25	19	30
	イラストレーションⅡ	2	1	25	22(1)	34
	絵本・イラストレーション	2	2	25	23	4
	コミュニケーションデザイン論Ⅰ	2	1	25	21	34
	コミュニケーションデザイン論Ⅱ	2	2	25	23	15
	DTP 演習	2	2	26	17(2)	12
	Web デザイン	2	2	24	11(2)	11
	情報デザイン論	2	1	26	23(2)	34
	デジタルデザイン表現	2	2	27	23	15
	パッケージデザイン	2	2		0	11
	インテリアディスプレイデザイン	2	2	0		
	インテリアデザイン演習	2	2		0	
	課題研究	2	1	26	20	32
展開科目	生活環境学	2	2	30(1)	11	18
	テキスタイルデザイン	2	2	9	15	5
	地域・環境デザイン論	2	2	12	17	7
	生活造形演習	2	2	23	12	5
	広告デザイン論	2	2	31	25(3)	7
卒業研究	卒業研究	4	2	68	60	42
	インターンシップ	2	1・2	0	3	1

(授業の成果 GPA の状況 生活デザイン学科) 留年生を除く

区分	入学年度	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
GPA 平均点	1 年生	2.19	2.77	2.52	2.83
	2 年生	2.34	2.67	2.74	未算出
	総合	2.27	2.74	2.65	未算出
	基準最高点	3.0	4.0	4.0	4.0

(学外授業等の状況 生活デザイン学科) 単位：件

	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
学外授業(見学)	31 件	10 件	22 件	15 件
海外研修	1 件	0 件	2 件	0 件
地域連携授業	16 件	12 件	22 件	12 件

※学生が参加する授業

2. ディプロマ・ポリシー指標

(卒業生の状況 生活デザイン学科)

	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
卒業予定者	55 人	68 人	53 人	40 人
就職希望者(就職率)	47 人(89.4%)	49 人(98.0%)	45 人(100%)	34 人(100%)
進学希望者(進学率)	5 人(80.0%)	9 人(100%)	5 人(100%)	4 人(100%)
未進路者	3 人	10 人	3 人	2 人
休学者	4 人	2 人	0 人	6 人
復学者	0 人	3 人	1 人	3 人
留年者	1 人	3 人	3 人	3 人
退学・除籍者	1 人	0 人	4 人	5 人

(「ものづくり」に関する能力 検定等の取得状況 生活デザイン学科) ( )は受験者に対する合格率

区分	卒業年度	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
衣料管理士	2 級	17 人(100%)	12 人(100%)	8 人(100%)
ファッションビジネス能力検定	2 級	10 人(50.0%)	3 人(42.9%)	11 人(73.3%)
	3 級	3 人(100%)	3 人(75.0%)	2 人(100%)
ファッション販売能力検定	2 級	1 人(0%)	2 人(100%)	1 人(100%)
	3 級	3 人(100%)	1 人(100%)	
建築 CAD 検定	2 級	0 人(0%)	0 人(0%)	0 人(0%)
	3 級	0 人(0%)	3 人(25.0%)	0 人(0%)
リビングスタイリスト	2 級			
色彩能力検定	2 級	15 人(75.0%)	4 人(100%)	6 人(100%)
	3 級	36 人(94.7%)	29 人(96.7%)	32 人(97.0%)
	UC 級			2 人(100%)
マルチメディア検定	ベーシック	19 人(82.6%)	12 人(80.0%)	25 人(96.1%)
Web デザイナー検定	ベーシック	18 人(85.7%)	15 人(83.3%)	26 人(93.1%)
パターンメイキング技術検定	3 級	2 人(0%)		3 人(100%)

(専門教育科目の勉学意欲 卒業時アンケート結果 生活デザイン学科)

	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
増した	64.2%	55.6%	64.0%	71.1%
少し増した	32.1%	36.5%	32.0%	23.7%
あまり変わらない	3.8%	7.9%	4.0%	5.3%

※Q：専門教育科目のカリキュラムについて、全体として勉学への意欲・興味・関心などが促されましたか。

### 3. アドミッション・ポリシー指標

(入学者の状況 生活デザイン学科) 単位：人

	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
入学者(志願者)	68人(155)	61人(123)	45人(82)	68人(130)	59人(80)
総合型選抜	15人(35)	14人(31)	13人(15)	21人(33)	19人(19)
学校推薦	26人(30)	26人(34)	17人(17)	24人(27)	20人(20)
社会人等選抜	0人(1)	0人(0)	0人(0)	0人(0)	0人(0)
一般選抜	27人(89)	21人(58)	15人(50)	23人(70)	20人(41)

(オープンキャンパスの状況 生活デザイン学科) 学園祭を除く

区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
開催日程	7/20、8/3	7/19、8/1.9.22、9/13.27	6/20、7/17、8/1.9	6/5、7/23、8/7.17
参加者	146人	83人	134人	123人

(本学を希望した理由 新入生アンケート結果 生活デザイン学科 R5はデザイン環境学科) 複数回答可

	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
短期に一般教養や専門知識・技術を身につけるため	23.5%	19.7%	23.1%	20.3%
資格をとるため	17.0%	18.3%	14.9%	17.6%
自分が学びたいことが学べる環境・カリキュラムであると思ったから	26.5%	25.6%	24.6%	25.5%
4大の3年次編入や専門学校などへの選択ができるから	8.5%	10.2%	11.9%	7.8%
卒業後の就職に有利だから	4.0%	2.9%	4.5%	7.8%
公立だから	20.5%	23.4%	20.9%	20.3%

### 4. 地域貢献活動

(教員の地域貢献活動の状況 生活デザイン学科)

区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
公開講座	7件	0件	2件	2件
出前・出張講座	4件	0件	3件	2件
地域連携活動	15件	12件	22件	13件
行政等審議会議員派遣	13件	15件	12件	9件

### 5. 研究活動

(外部資金獲得の状況 生活デザイン学科)

区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
科研費採択	5件	5件	3件	3件
奨学寄附金採択	0件	3件	3件	1件



## 自己評価報告書

(評価対象)

実施機関名	教務委員会	代表者氏名	委員長
評価年度	令和4年度	作成者氏名	委員会事務局

(実施機関の使命と現状)

カリキュラムポリシー及びディプロマポリシー又は設置趣旨	・教務に関する事項を審議する。(教務委員会規程第1条)
現状説明	・R4年度事業計画を策定し、実施した。【R4年度教務委員会活動報告】 ・以下の事項を審議し、総務委員会及び教授会へ報告した。 全学共通の学修指導及び業務の執行に関すること。 学科目・単位数・必修選択の区分等の改定及び運用に関すること/特別講義等を含む教育計画の立案企画に関すること/授業時間割の編成及び七曜日表の作成に関すること/非常勤講師候補者の選定に関すること/その他必要な事項

(令和4年度重点目標の達成状況)

重点目標	① 3学科体制へのカリキュラム対応 ② 「岐阜学」の開講準備 ③ 学修ポートフォリオの作成 ④ 授業の質を保証する仕組みづくり ⑤ 新型コロナウイルス感染症拡大防止にかかる授業・試験等への対応
達成状況	① 各種規程の改正及び読み替え科目一覧の作成 ② 岐阜学プログラムの内容決定 ③ ポートフォリオを作成 ④ 授業の質を保証する仕組みづくりを検討 ⑤ 対面授業・遠隔授業を併用した授業時間割を作成
改善事項及び成果	① 改正した各種規程と読み替え科目一覧にて3学科体制への変更に対応する ② 決定した岐阜学プログラムの内容を新入生に周知 ③ トライアルとしてR4年度後期からポートフォリオに基づいた学生指導を開始 ④ 自己評価委員会にて継続審議 ⑤ 学内クラスターの発生なし
根拠資料	① 学修規程ほか4規程及び読み替え科目一覧(各学科) ② R5年度 岐阜学プログラム 概要説明 ③ 学修ポートフォリオ ～成長の記録～ ④ 教務委員会資料 ⑤ R4年度授業時間割
次年度の課題と改善策	① 旧カリキュラム対象の学生について対応する ② 岐阜学プログラムの見直し及び次年度の内容決定 ③ 学修ポートフォリオの本格運用 ④ 自己評価委員会にて継続審議 ⑤ 引き続き新型コロナウイルス感染症拡大状況を注視し、開講方法(遠隔・対面)等の見直しをおこなう

(令和5年度重点目標と方策)

重点目標	① カリキュラムの見直し ② SPARC連携開設科目の検討 ③ 学修/教育ポートフォリオの検証・推進・管理 ④ R6年度岐阜学プログラムの内容決定 ⑤ 数理・データサイエンス・AI教育プログラムの検討
方策	① R5年度カリキュラムを検証し、見直しをおこなう ② 関係する委員会と協議して対応 ③ アンケート結果等をもとに、必要に応じて内容等を見直す(学修ポートフォリオ) 関係する委員会と協議して開発(教育ポートフォリオ) ④ R5年度岐阜学プログラムを検証し、見直しをおこなう ⑤ データ駆動科学教育研究センターと連携して対応する

※適宜枠を広げて記入してください。ただし、2枚を超えないように作成してください。

※資料は、表題を記して別途添付してください。

## 自己評価報告書

## (評価対象)

実施機関名	厚生委員会	代表者氏名	委員長
評価年度	令和4年度	作成者氏名	委員会事務局

## (実施機関の使命と現状)

カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシー又は設置趣旨	・厚生に関する事項を審議する。(厚生委員会規程第1条)
現状説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R4年度事業計画を策定し、実施した。【R4年度事業計画兼実績書】</li> <li>・以下の事項を審議(定期11回)し、総務委員会及び教授会(11回)へ報告した。 学生自治会及びその他の学生集会、団体等の課外活動の指導/学生の生活補導及び安全対策など、学生の生活全般の指導/全学共通の開催行事の立案並びに挙行運営/労働安全衛生法及び岐阜市職員安全衛生規程に定める衛生委員会並びに学校保健法に定める学校保健に関する事項につき審議立案/学生及び教職員に対する衛生保健思想の啓発及び指導/その他学内の厚生に関すること</li> <li>・迅速、効果的に活動するため、他委員会(教務委員会)と連携して上記を審議(5回)した。</li> <li>・全教職員に取組みを周知するため、必要に応じて委員長通知(4件)を発出した。</li> <li>・申し出のあった学生に対し、受験時及び学修及び学生生活における合理的配慮を関係時実施機関と調整し施行した。</li> </ul>

## (令和4年度重点目標の達成状況)

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 学内での濃厚接触者 陽性判定者ゼロ</li> <li>② 長時間労働の改善 会議時間 90分超ゼロ</li> </ul>
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 学内濃厚接触者の陽性判定 5人。 学内クラスター発生件数：0件(陽性判定者 職員：3件 学生：81件)</li> <li>② 毎回、90分超の会議が2会議。長時間労働(時間外相当労働時間)は、概ね45時間内に収まっているが、基準を超える者が数人見られた。</li> </ul>
改善事項及び成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 講義室等に啓発掲示。注意喚起の学内放送を実施した(4、7、9、11、12月)。 ・陽性判定者は、令和3年度から増えたが、学生⇄大学間の連絡体制及び事前・事後対応は周知されてきている。</li> <li>② 毎月の学内会議の時間、教職員の労働時間のデータを整理し、教授会に報告した(2回)。 ・会議時間縮減の意識が周知されてきている。学内規程(申合せ)に、時間短縮等を規定し、職場環境改善の取組みを全教職員に通知(2回)した。</li> </ul>
根拠資料	【黙食ポスター】 / 【安全衛生管理計画兼実績書】 / 【健康で安全な職場環境の推進について(通知)】
次年度の課題と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染対策は緩和される方針ではあり、ポストコロナ、脱マスク等でのメンタルヘルス対策を充実する。</li> <li>・長時間となる会議、労働時間等からなる教職員のストレスを予防するため、会議時間等の調査を継続する。</li> </ul>

## (令和5年度重点目標と方策)

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 学生のメンタルヘルス 休学者前年度比減</li> <li>② 教職員のストレス予防 ストレスチェック受験者前年度比増</li> </ul>
方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>① カウンセリング、適時・適切な情報を学生に周知する。</li> <li>② 長時間となる会議等の事由等をヒアリングし、改善策等の対策を周知する。</li> </ul>

※適宜枠を広げて記入してください。ただし、2枚を超えないように作成してください。

※資料は、表題を記して別途添付してください。

## 自己評価報告書

## (評価対象)

実施機関名	進路支援委員会	代表者氏名	委員長
評価年度	令和4年度	作成者氏名	委員会事務局

## (実施機関の使命と現状)

カリキュラム・ポリシー及びディグリー・ポリシー又は設置趣旨	・進路支援に関する事項を審議する。(進路支援委員会規程第1条)
現状説明	<p>・R4年度事業計画を策定し、実施した。【R4年度事業計画兼実績書】</p> <p>・以下の事項を審議(定期10回)し、総務委員会及び教授会(10回)へ報告した。</p> <p>学生の進路支援に関すること。</p> <p>進路支援講座の計画及び実施/進路決定者、内定率の報告/インターンシップに関する説明会実施/サイボウズデジエの後継サービスの検討、予算要求/ハローワーク相談会の実施/卒業生アンケートの実施/編入学先への推薦入学枠の依頼作成/合同企業説明会の実施(対面)/推薦求人の学内選考</p> <p>その他学内の進路支援に関すること。</p>

## (R4年度重点目標の達成状況)

重点目標	<p>① 学生の内定状況、合格状況の把握</p> <p>② 卒業生(進路未決定者)のサポート</p> <p>③ 1年生向けガイダンス</p> <p>④ OGに対するアンケート調査の企画実施</p>
達成状況	<p>② 就職内定率98.2% 編入学87.1%</p> <p>③ 0件</p> <p>④ 全33講座実施</p> <p>⑤ 紙、メールで実施済み。</p>
改善事項及び成果	<p>① 報告がない学生には委員から担任、ゼミ担当へ依頼し状況把握した。</p> <p>② 対象者からの面談要望等がなかった。引き続き、委員から状況把握を含め進路情報等を提供していく。</p> <p>③ 筆記試験対策講座に重点を置いて開催数を増やした。また、オンラインでの面接に備え、少人数制で講座を行った。受講者の不安や、就職に関する疑問を解決できたことで効果はあった。</p> <p>④ メールでの依頼については返信があったため一定の効果はあった。</p>
根拠資料	
次年度の課題と改善策	<p>③ 参加率が低かったため効果的な進路支援講座の開催</p> <p>④ 回答数増加のための手段の変更 アンケートの配置方法やオンライン回答等。</p>

## (R5年度重点目標と方策)

重点目標	・進路決定率を上げる。
方策	<p>① 内定状況、編入学状況の維持及び報告</p> <p>② 進路支援講座の計画、実施</p>

※適宜枠を広げて記入してください。ただし、2枚を超えないように作成してください。

※資料は、表題を記して別途添付してください。

## 自己評価報告書

## (評価対象)

実施機関名	広報委員会	代表者氏名	委員長
評価年度	令和4年度	作成者氏名	委員会事務局

## (実施機関の使命と現状)

カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシー又は設置趣旨	<p>・ 本学の特色や魅力を広く発信するために必要な事項を審議する。</p> <p style="text-align: right;">(広報委員会規程第1条)</p>
現状説明	<p>・ R4年度事業計画を策定し、実施した。【別紙 R4年度事業計画書】</p> <p>・ 以下の事項を審議(定期10回)し、総務委員会及び教授会(11回)へ報告 広報活動の企画・運営に関すること。</p> <p>「オープンキャンパスポスター・チラシ」の作成・配布/PR用を兼ねたオープンキャンパス資料入れ(ロゴ入りトートバッグ)の作成・配布/R5～6年度キャッチコピーの決定/進学ガイダンス用スライド更新/オープンキャンパス学科紹介動画のTeams掲載 公式メディアの編集・発行に関すること。</p> <p>本学公式ウェブサイトを利用した広報活動/本学公式YouTubeチャンネル「岐女短チャンネル」の運営/学科SNS(インスタグラム)の運用/学内ニュースレター『AURA』の作成/スタッフプロフィール更新/「大学案内2024」作成/ぎふチャンネル「あなたの街から・岐阜市」で本学の魅力を発信 外部メディアの情報掲出に関すること。</p> <p>新聞等へのオープンキャンパス情報、入試情報の広告掲載/進学サイトへの学校情報掲載/ラジオを利用した入試・オープンキャンパス情報の広報 その他広報に関すること。</p>

## (令和4年度重点目標の達成状況)

重点目標	・ 重点目標化はしていない。
達成状況	<p>以下事業計画の進捗を記載</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本学公式ウェブサイトを利用した広報活動 新着情報：56件(R5.3.30現在) オープンキャンパスページ作成・公開：4/20 新学科ページ作成・公開：9/28(暫定ページ更改)、12/22(一部公開)、2/8(全部公開)</li> <li>2. 本学公式YouTubeチャンネル「岐女短チャンネル」の運営 動画掲載数：10本(R5.3.31現在)、26本(総計) 視聴回数：10,172回(R5.3.31現在、総計)</li> <li>3. 学科SNS(インスタグラム)の運用(R5.3.31現在) フィード掲載数：41本(英語英文学科) 28本(国際文化学科) 44本(食物栄養学科) 829本(生活デザイン学科)</li> <li>4. 学内ニュースレター『AURA』の作成 第2号：11/30発行(本学ウェブサイト掲載、高校訪問時配布) 第3号：2/28発行(本学ウェブサイト掲載)</li> <li>5. スタッフプロフィール更新</li> <li>6. 「大学案内2024」作成：印刷部数：4,000部 「データサイエンス教育」「岐阜学」「地域連携活動」「女性リカレント教育・公開講座」の各ページを新たに作成</li> <li>7. 「オープンキャンパスポスター・チラシ」の作成・配布 ポスター：300枚 チラシ：3,000枚</li> <li>8. PR用を兼ねたオープンキャンパス資料入れ(ロゴ入りトートバッグ)の作成・配布 トートバッグ：500個</li> </ol>

	<p>9. 新聞等へのオープンキャンパス情報、入試情報の広告掲載  6月：岐阜新聞タブロイド紙「高校ダイアリー2022夏号」  9月：マナビジョンブック2022「受験校決定PERFECTBOOK生徒版」  9月：岐阜新聞タブロイド紙「高校ダイアリー2022秋号」</p> <p>10. 進学サイトへの学校情報掲載  4-3月：進研アド・マナビジョンサイト (PV数412,050,000)  4-3月：マイナビ・マイナビ進学サイト (PV数26,000,000)</p> <p>11. ラジオを利用した入試・オープンキャンパス情報の広報  FMわっち：7/25放送 (オープンキャンパス開催案内)  ぎふチャン：1/10放送 (一般選抜願書受付案内)</p> <p>12. R5～6年度キャッチコピーの決定  「共に、新しい扉をひらこう。」</p> <p>13. 進学ガイダンス用スライド更新  新3学科体制に合わせてリニューアル</p> <p>14. オープンキャンパス学科紹介動画のTeams掲載  高校訪問時などにおいて、他学科の説明がより詳細にできるよう、オープンキャンパス学科紹介動画をTeamsに掲載</p> <p>15. ぎふチャン「あなたの街から・岐阜市」で本学の魅力を発信  ぎふチャンテレビ：9/2 放送</p>
改善事項及び成果	以下、R3年度の改善事項 ・本学HP更新作業に伴う広報委員の権限の拡張 ・3学科体制に改編に伴う広報内容の変更
根拠資料	【新学科紹介パンフレット】【YouTube】【大学案内 2024】
次年度の課題と改善策	・入学者の定員充足のための早めの広報活動 ・本学の魅力発信の強化に向けた施策を検討

(令和5年度重点目標と方策)

重点目標	① 入学者の定員充足のための早めの広報活動
方策	① 委員会内での協議と教授会審議

※適宜枠を広げて記入してください。ただし、2枚を超えないように作成してください。

※資料は、表題を記して別途添付してください。

## 自己評価報告書

## (評価対象)

実施機関名	入試委員会	代表者氏名	委員長
評価年度	令和4年度	作成者氏名	委員会事務局

## (実施機関の使命と現状)

カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシー又は設置趣旨	・ 入学者選抜及び入学試験に関する事項を審議する。(入試委員会規程第1条)
現状説明	<p>・ R4年度事業計画を策定し、実施した。【R4年度事業計画兼実績書】</p> <p>・ 以下の事項を審議(定期12回、臨時2回)し、総務委員会及び教授会(11回)へ報告した。</p> <p>入学者選抜の実施方法及び制度に関する事/入学資格に関する事/入学者の募集方針に関する事/入学試験の実施に関する事/入学試験の情報開示に関する事/入学者選抜に係る点検・評価及び改善に関する事/大学入試センター試験に関する事/入学者選抜及び入学試験の説明会等に関する事/その他入学者選抜及び入学試験に関し委員会が必要と認める事項</p> <p>・ 入試改革を進めるため、専門部会を設置(12月)した。</p>

## (令和4年度重点目標の達成状況)

重点目標	<p>① 入学者定員を確保する。</p> <p>② オープンキャンパス来場者を増やす。</p>																				
達成状況	<p>① 入学誓約者 167名/定員 200名(3/30現在 充足率 84% R3は 85%)</p> <p>② 来場者 386名(R3は 396名)</p>																				
改善事項及び成果	<p>① 学校推薦型選抜に指定校枠(24校)を設けた。(志願者推移は下表のとおり)</p> <p>→指定校枠の導入により一定の定員確保効果が見られる。特に、市内の高校からの志願者増につながっている。15校から22名応募。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学科</th> <th>総合型選抜 (R3→R4→R5)</th> <th>学校型選抜 (R3→R4→R5)</th> <th>計 (R3→R4→R5)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国際コミュニケーション</td> <td>14→16→15</td> <td>30→23→27(内、指定校 10)</td> <td>44→39→42</td> </tr> <tr> <td>健康栄養</td> <td>17→29→13</td> <td>13→11→12(内、指定校 4)</td> <td>30→40→25</td> </tr> <tr> <td>デザイン環境</td> <td>15→33→19</td> <td>17→27→20(内、指定校 8)</td> <td>32→60→39</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>47→78→47</td> <td>60→61→59</td> <td>106→139→106</td> </tr> </tbody> </table> <p>② 6月のオープンキャンパスで全学科の説明等が体験できるように時間帯を確保した。キャンパスツアーやフリートークスペース(2階CeNCEr企画)を設けた。</p> <p>→来場者の高校2年生の割合が増えてきている。</p>	学科	総合型選抜 (R3→R4→R5)	学校型選抜 (R3→R4→R5)	計 (R3→R4→R5)	国際コミュニケーション	14→16→15	30→23→27(内、指定校 10)	44→39→42	健康栄養	17→29→13	13→11→12(内、指定校 4)	30→40→25	デザイン環境	15→33→19	17→27→20(内、指定校 8)	32→60→39	計	47→78→47	60→61→59	106→139→106
学科	総合型選抜 (R3→R4→R5)	学校型選抜 (R3→R4→R5)	計 (R3→R4→R5)																		
国際コミュニケーション	14→16→15	30→23→27(内、指定校 10)	44→39→42																		
健康栄養	17→29→13	13→11→12(内、指定校 4)	30→40→25																		
デザイン環境	15→33→19	17→27→20(内、指定校 8)	32→60→39																		
計	47→78→47	60→61→59	106→139→106																		
根拠資料	【入学者選抜の状況】 / 【オープンキャンパスリーフレット】 /																				
次年度の課題と改善策	<p>・ 受験生が出願しやすい募集要項(出願資格等)になっているか検討する必要がある。</p> <p>・ 学科改編の内容説明や入学者選抜の情報提供が7月以降となり、高校や受験生に対し情報提供が遅れたことから、早期に広報体制を整備する必要がある。</p>																				

## (令和5年度重点目標と方策)

重点目標	<p>① 入学者定員を確保する。</p> <p>② オープンキャンパス来場者を増やす。</p>
方策	<p>① 早期に入学者選抜の方針を策定し、募集要項を公表する。新学科カリキュラムのPRや指定校推薦の学生募集のため、全学体制で訪問計画する。</p> <p>② 学内関連組織と連携し、広報体制(オープンキャンパス企画等)を設置する。</p>

※適宜枠を広げて記入してください。ただし、2枚を超えないように作成してください。

※資料は、表題を記して別途添付してください。

## 自己評価報告書

## (評価対象)

実施機関名	科学研究委員会	代表者氏名	委員長
評価年度	令和4年度	作成者氏名	委員会事務局

## (実施機関の使命と現状)

カリキュラム・ポリシー及びディグリー・ポリシー又は設置趣旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育研究の充実、向上に必要な事項を審議する。(科学研究委員会規程第1条)</li> <li>※R4.7.27より図書科学研究委員会を科学研究委員会に組織(規程)改正</li> </ul>
現状説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R4年度事業計画を策定し、実施した。【別紙 R4年度事業計画書】</li> <li>・以下の事項を審議(定期11回)し、総務委員会及び教授会(11回)へ報告 <ul style="list-style-type: none"> <li>研究紀要の受付、編集、刊行及び投稿規定に関すること/教育方法の研究・研修等に関すること/施設及び機器の教育・研究利用に関すること/受託研究、奨学研究、共同研究等に関すること/在外研究員及び内地研究員に関すること/発明に関すること/公開講座に関すること/各種受賞候補者の推薦に関すること/その他、学術情報、紀要及び教育・研究に関すること(規程第5条)</li> </ul> </li> <li>・公開講座の実施</li> <li>・研究交付金監査</li> <li>・ぎふじょシンポジウム参加</li> <li>・FD研修会の開催</li> <li>・研究紀要まとめ</li> </ul>

## (令和4年度重点目標の達成状況)

重点目標	・重点目標化はしていない。
達成状況	<p>以下事業計画の進捗を記載</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公開講座は12講座実施、235名参加</li> <li>・研究交付金監査実施 R3年度分執行率91.97%</li> <li>・研究倫理研修の実施 eラーニング(R4.12末まで)</li> <li>・FD研修の実施 高校情報教育(R5.3.1)</li> <li>・研究交付金規定の見直し</li> <li>・紀要の公表(R5.1.31) 投稿数5件執筆者13人</li> </ul>
改善事項及び成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・FD研修により、高校授業の動向を把握し、高大連携等に資する情報共有ができた。</li> </ul> <p>以下、R3年度の改善事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公開講座に女性向け講座を開設することとし講座を実施</li> </ul>
根拠資料	・公開講座広報紙
次年度の課題と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・客員研究員の科学研究費応募資格について規定化</li> <li>・公開講座において女性向け講座に拡充</li> <li>・研究交付金の監査では、執行率が極度に低い教員に対してルールを厳格に適用することによる有効活用の担保</li> </ul>

## (令和5年度重点目標と方策)

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 客員研究員の科学研究費応募資格の学内規定化</li> <li>② 時宜を得たテーマで効果的なFD研修を複数回実施すること。〔学長指示〕</li> <li>③ 教員の研究成果(魅力発信)を市役所ホール等で広報すること。〔学長指示〕</li> </ol>
方策	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 委員会内での協議と教授会審議</li> <li>② 委員会内協議</li> <li>③ 委員会内協議及び広報委員会連携</li> </ol>

※適宜枠を広げて記入してください。ただし、2枚を超えないように作成してください。

※資料は、表題を記して別途添付してください。

## 自己評価報告書

## (評価対象)

実施機関名	地域連携センター運営委員会	代表者氏名	委員長
評価年度	令和4年度	作成者氏名	委員会事務局

## (実施機関の使命と現状)

カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシー又は設置趣旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域連携及び地域貢献活動の組織的取り組みを充実し、地域連携センター及び附属図書館の運営を協議、実施する。(岐阜市立女子短期大学地域連携センター設置規程第1条)</li> </ul>
現状説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>R4年度活動計画を策定し実施した。</li> <li>以下の事項を審議。定期的な委員会は開催せず、Teams内での協議と不定期に開催する委員会により運営する。第4回教授会の承認を受け、7月27日以降図書館運営の一部も協議する。</li> </ul> <p>地域連携及び地域貢献活動の組織的取り組みの企画立案に関すること/地域連携及び地域貢献活動の総合窓口機能に関すること/本学の教員又は組織の地域連携及び地域貢献活動の支援に関すること/地域のニーズの把握に関すること/附属図書館の管理運営、利用に関すること/図書購入に関すること/本学の歴史資料の収集整理に関すること(規程第2条)</p>

## (令和4年度重点目標の達成状況)

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 地域連携センター (CeNCER) の開設</li> <li>② 外部との連携事業の強化</li> </ul>
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑥ R4.4.1 地域連携センター (CeNCER) 開設 (6月1日開所式)。</li> <li>⑦ 受付25件 実施16件 実施予定7件 事業中止2件</li> </ul>
改善事項及び成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 教員へのマッチングへ行うための受付、手法を検討しフォームを作成</li> <li>② CeNCERにおいてもオープンキャンパスを実施、卒業生を巻き込んだ活動へ繋がった。</li> <li>③ 図書館インスタ案の確認作業をteamsで審議し、従来より1日早く公開</li> <li>・多様な地域の課題及び要請に対し、教員の高度な専門的知識の提供又は提言、若しくは学生の主体的な学びの場(成功体験)となる窓口ができた。</li> </ul>
根拠資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>【受付フォーム】</li> <li>【卒業生にもオープンキャンパス】</li> </ul>
次年度の課題と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 全教員が地域連携に関わる仕組みの実施</li> <li>② CoCoLiの実質的な稼働、夏季休暇時高校生への開放の検討</li> <li>③ 民間企業からの依頼に対する対応、手数料徴収の検討</li> <li>④ 海外オンライン連携の検討</li> <li>⑤ S-CeNCER ふるさと納税の活用</li> <li>⑥ オープンキャンパスに合わせた図書館休日開館</li> </ul>

## (令和5年度重点目標と方策)

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 全教員が地域連携に関わる仕組みの実施</li> <li>② 学生確保につながる連携事業の拡充</li> </ul>
方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 機械的に振り分けるシート作成、教員の意識向上</li> <li>② 広報強化、S-CeNCERの活用</li> </ul>

※適宜枠を広げて記入してください。ただし、2枚を超えないように作成してください。

※資料は、表題を記して別途添付してください。



## 自己評価報告書

## (評価対象)

実施機関名	データ駆動科学教育研究センター運営委員会	代表者氏名	委員長
評価年度	令和4年度	作成者氏名	委員会事務局

## (実施機関の使命と現状)

カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシー又は設置趣旨	<p>・数理・データサイエンス・AIを活用して課題を解決する実践的な能力の装着及び地域社会を牽引する人材の育成並びに数理・データサイエンス・AIの教育研究分野の発展に寄与すること。</p> <p>(岐阜市立女子短期大学データ駆動科学教育研究センター設置規程第2条)</p>
現状説明	<p>・R4年度事業計画を策定し、実施した。</p> <p>・以下の事項を審議し、総務委員会及び教授会へ報告 数理・データサイエンス・AI教育及び情報に関する教育の推進に関すること/数理・データサイエンス・AI教育分野のカリキュラムの計画、運用管理に関すること/数理・データサイエンス・AI教育プログラムの自己点検及び評価に関すること/数理・データサイエンス・AI教育に関するリカレント教育の推進に関すること/データ駆動・AIに関する研究や社会連携の推進に関すること/教育の情報化の推進に関すること/本学のキャンパスネットワークシステム(G-WING)の維持管理及び改善に関すること/情報処理機器利用に関すること/情報処理LAB、情報処理自習室の利用に関すること/その他、センター長が必要と認めた事項に関すること</p> <p>(規程第3条)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. データ駆動科学教育研究センターの運営開始</li> <li>2. 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)への申請</li> <li>3. データ駆動科学教育研究センターによる今後のカリキュラムについて</li> </ol>

## (令和4年度重点目標の達成状況)

重点目標	・重点目標化はしていない。
達成状況	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. データ駆動科学教育研究センターの運営開始に伴い、運営に係る役職等の指名、部会の設置・部会長の指名などを行った。</li> <li>2. R5年度の認定制度への申請に向けて、自己点検結果の作成・公開、公募説明会への参加、公募書類の準備を行った。</li> <li>3. SPARC事業や地域・海外の大学との連携を踏まえたR6年度以降のカリキュラムや「さくらサイエンスプログラム」の実施について検討を行った。</li> </ol>
改善事項及び成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 運営体制の準備ができた。</li> <li>2. 本学での教学の新たな魅力発信の準備ができた。</li> <li>3. 関係実施機関と調整し、全学的な取組みのスタートイメージができた。</li> </ol>
根拠資料	
次年度の課題と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データ駆動科学教育研究のカリキュラム策定</li> <li>・情報システムの更新への対応</li> </ul>

## (令和5年度重点目標と方策)

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>① データ駆動科学教育研究センターの運営やカリキュラムの策定</li> <li>② R6年度末の情報システムの更新(R5年度当初・予算申請)への対応</li> </ol>
方策	<ol style="list-style-type: none"> <li>① SPARC事業や地域・海外の大学との連携も踏まえ、他大学の事例等も参考にしながらセンターの運営方法を策定していくとともに、本学の特性を活かしたカリキュラムを策定していく。</li> <li>② 現在の情報システムの課題等を踏まえて、次期システムの内容を業者の意見を参考に検討するとともに、R5年度の予算獲得に向けて対応していく。</li> </ol>

※適宜枠を広げて記入してください。ただし、2枚を超えないように作成してください。

※資料は、表題を記して別途添付してください。

## 自己評価報告書

## (評価対象)

実施機関名	情報システム委員会	代表者氏名	委員長
評価年度	令和4年度	作成者氏名	委員会事務局

## (実施機関の使命と現状)

カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシー又は設置趣旨	・ キャンパスネットワークシステム（以下「G-WING」という。）及び情報処理機器の利用、維持管理及び改善をする。（情報システム委員会規程第1条）
現状説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ R4年度事業計画を策定し、実施した。</li> <li>・ 以下の事項を審議し、総務委員会及び教授会へ報告 G-WINGの維持管理及び改善に関する事項/ホームページ公開に関する事項/情報処理機器利用に関する事項/情報処理LAB、情報処理自習室の利用に関する事項(規程第5条)</li> <li>1. オフィスライセンス・IPアドレスの管理</li> <li>2. 学内情報機器の整備</li> <li>3. 学生の無線LAN利用に関する諸規則の制定</li> <li>4. 次期情報システムの更新</li> </ul>

## (令和4年度重点目標の達成状況)

重点目標	・ 重点目標化はしていない。
達成状況	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オフィスのライセンス発行、PCのIPアドレスの発行を適切に管理・運用した。</li> <li>2. Lab1、Lab2、CALL教室、講義室、教職員PCなどの学内にあるサーバー、無線LAN、PCについて、不具合の対応を行った。</li> <li>3. 学生の無線LAN利用に関する諸規則を今年度設定し、学生の無線LANの利用を開始した。また、学生から提出された無線LAN利用許可申請書・誓約書の審査を行い、学生の無線LAN利用を適切に管理・運用した。</li> <li>4. R6年度末の情報システムの更新（R5年度当初・予算申請）に向けて、必要設備・セキュリティ対策・予算規模等について検討を行った。</li> </ol>
改善事項及び成果	<p>以下、R3年度の改善事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生の無線LAN利用に関する諸規則の制定</li> </ul> <p>学生の無線LAN利用に関する諸規則を今年度設定し、学生の無線LANの利用を開始した。</p>
根拠資料	【岐阜市立女子短期大学無線LAN利用ガイドライン（学生用）】
次年度の課題と改善策	・ データ駆動科学教育研究センター運営委員会へ引き継ぎ

## (令和5年度重点目標と方策)

重点目標	・ データ駆動科学教育研究センター運営委員会へ引き継ぎ
方策	

※適宜枠を広げて記入してください。ただし、2枚を超えないように作成してください。

※資料は、表題を記して別途添付してください。

## 自己評価報告書

## (評価対象)

実施機関名	自己評価委員会	代表者氏名	委員長
評価年度	令和4年度	作成者氏名	委員会事務局

## (実施機関の使命と現状)

カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシー又は設置趣旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備に係る総合的な活動について自己点検及び評価を行い、その結果を踏まえた本学の教育研究活動等の継続的な質の改善につなげることにより質を維持し向上を図る取組みを行う。(自己評価委員会規程第1条)</li> </ul>
現状説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下の事項を審議(5回)し、総務委員会及び教授会へ報告(4回)した。 【R4年度事業計画兼実績書】 自己評価等の基本方針及び自己評価項目の策定に関する事/自己評価等の実施及び内部質保証の体制に関する事/自己評価等の結果の公表に関する事/学校教育法に定める認証評価に関する事/教員活動評価に係るデータベースの運用に関する事/その他自己評価等及び内部質保証に関し必要と認めること</li> <li>実施機関の取組みを改善するため、助言書を通知(4回)した。</li> <li>学長に自己評価委員会報告書を報告(3回)した。</li> </ul>

## (令和4年度重点目標の達成状況)

重点目標	① 自己点検報告書を作成する
達成状況	① 自己点検報告書を作成した(R5.3)。
改善事項及び成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 自己評価委員会に作業部会を設置し、認証評価機関の要求事項を点検した。</li> <li>・要求事項を充実するため、実施機関等に対し委員会助言を通知し、教学の内部質保証の必要性を教職員に周知した。</li> </ul>
根拠資料	【自己評価等報告書に関する助言】 /
次年度の課題と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認証評価機関の現地検査に迅速に対応する。</li> <li>・対応措置が根治対応となるように組織的に対応する。</li> </ul>

## (令和5年度重点目標と方策)

重点目標	① 認証評価機関から認証を受ける
方策	① 自己点検評価委員会の作業部会を継続若しくは必要に応じて増員することで、認証評価機関からの指示等事項に対応する。

※適宜枠を広げて記入してください。ただし、2枚を超えないように作成してください。

※資料は、表題を記して別途添付してください。

## 自己評価報告書

## (評価対象)

実施機関名	事務局	代表者氏名	事務局長
評価年度	令和4年度	作成者氏名	事務局長

## (実施機関の使命と現状)

カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシー又は設置趣旨	<p>・大学の処務、会計及び施設等に関する事務を処理する。 (岐阜市立女子短期大学条例第6条)</p>
現状説明	<p>・令和4年度事業計画を策定し、実施した。【令和4年度事業計画兼実績書】</p> <p>・以下の事務を所掌した。 大学の財務及び庶務に関すること/大学施設の管理及び運営に関すること/教務に関すること/学生補導に関すること/職員又は学生の福利厚生及び保健衛生に関すること/附属図書館に関すること/情報の公開及び個人情報の保護に関すること/その他、大学に関すること(岐阜市立女子短期大学処務規則第5条)</p> <p>・学長の命を受け、所掌事務を掌理するとともに、他の実施機関に職員を配置し、教員組織と連携・協働した。</p>

## (令和4年度重点目標の達成状況)

重点目標	<p>① 3学科に変更する。</p> <p>② 志願倍率を2.5倍以上とする。</p> <p>③ 就職内定率前年度以上(96%以上)</p>
達成状況	<p>① 学科変更の条例改正を6/23市議会承認、6/27文科省へ変更届出した。</p> <p>② 志願倍率1.4倍</p> <p>③ 就職内定率97%</p> <p>・R4年度決算を9/27市議会承認、R5年度予算を3/27市議会承認。</p> <p>・R4年度教育後援会決算、R5年度予算を5/28総会承認。</p> <p>・教授会を含む16の学内委員会等に職員を配置し、資料等の庶務調整を実施。</p> <p>・学外の団体代表等からなる運営委員会と意見交換を2回実施した。</p> <p>・情報公開請求 17件(内、入試成績開示11件)</p> <p>・SD研修の実施 公立短期大学協会研修(R4.8.2 R5.1.23)</p>
改善事項及び成果	<p>① 学科変更に資する事業として、国の助成事業(SPARC事業)に岐阜大学と一緒に申請し、採択されたことで、変更に必要な事業費の一部を確保できた。</p> <p>② 学校推薦型選抜に指定校枠を設けたことで、市内入学者が増えた。</p> <p>③ 学内に地域連携センターを開設し、本学の知名度アップと学生の参画によるガクチカ機会を提供した。</p> <p>・市議会定例会に2回登壇、市議会文教委員会で本学の現状や魅力を発信するなど、本学運営に理解を求めた。</p> <p>・SD研修により、教育研究事案を含む大学運営に係る情報交換と課題発見ができた。</p>
根拠資料	<p>【市議会一般会計決算/予算】 / 【教育後援会決算/予算】 / 【学生募集要項】</p> <p>【本学Webサイト】</p>
次年度の課題と改善策	<p>・定員未充足が続いており、本学の教育研究の魅力度アップとともに、市と協力して中長期の本学のあり方を具体的に明示していく必要がある。</p>

## (令和5年度重点目標と方策)

重点目標	<p>① 中長期方針(将来構想)を策定する</p> <p>② 定員充足率100%</p> <p>③ 就職内定率前年度以上(97%以上)</p>
方策	<p>① 学内委員会で調整し、市と連携し策定する。</p> <p>② 入試選抜方法の見直し、教育研究の魅力発信を強化する。</p> <p>③ 早期のキャリア教育と未確定学生へのプッシュ面談を充実する。</p>

※適宜枠を広げて記入してください。ただし、2枚を超えないように作成してください。

※資料は、表題を記して別途添付してください。